

科目名	文化人類学	担当教員	内藤 順子 ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	-------	------	---------------------------

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	選択	2年次	前期	1単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR23B	①、④					

科目概要	文化人類学とはフィールドワークから得られる知見にもとづいて、様々な人間現象をとらえる方法的学問である。本講義では世界のいろいろな現象や「伝統」や「文化」を参照し、それらの比較・これまでなされてきた分析や解釈の検証をとおして、われわれの常識や価値観、世界の在りかたをあらためて見直す。異なる文化あるいは他者と共生するとき・対峙するときの問題はいかなるものか、グローバルスタンダードとは何か、文化差はなぜ生じるかなどについて考察する。
学習目標	各回いずれも対話をトピックとしているが、こうした二分法的に世界を区切ることはどこまで妥当なのか。人類学的なものの考えかたをとおして、履修者それぞれが「自らの常識を疑うこと・他者を理解すること、とはどのようにしたら可能か」という問いの答えにたどり着くことを目標とする。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	文化人類学とは	人類学のはじまり、異文化理解と他者理解	人類学的思考の特徴を理解する。	
2	のろいと祈り	のろいは非科学か、善悪の境界とは、災因論	われわれが合理的だと考えている事例の根拠や前提を疑う癖を身につける。	
3	未開と文明	民間医療と西洋医学	世界における多様な医療行為について知識を得る。	
4	排除と包摂	差別問題（障害、認知症、性同一性障害、統合失調症）、当事者問題	差別の現実を学び、差別が生み出される構造について理解する。	
5	病と健康	文化結合症候群、「病気になる」とはどういうことか	病を社会・文化的現象としてとらえなおす視点を養う。	
6	途上国と先進国	開発現場における人類学的思考の応用と実践（1）	医療技術移転プロジェクト（地域リハ）の実際について学び、問題の所在を理解する。	
7	成果主義と経過主義	開発現場における人類学的思考の応用と実践（2）	医療開発援助の現場において科学技術至上主義という勘違いがもたらす弊害について理解する。	
8	豊かさと貧しさ	「環境世界」「共同幻想」「境界・分類・秩序」、他者にかかわるために必要な視点・構え・備え	流動的な世界、人間という可変的なものについてとらえる方法を体得し、他者理解しようと務めることをとおして自己を見つめなおす。	
評価方法		レポート 90%、講義に対する姿勢 10%		
課題に対するフィードバック		授業をとおしてフィードバックする。		
教科図書		教員作成資料		
参考図書		適宜講義中に指示する。		
学習の準備		事前に指示・配布する資料に目を通すこと（計 180 分）		

オフィスアワー	講義の前後とする。
担当教員欄に※印を 附した教員の 実務経 験	